
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年6月29日号

◎2007年5月小麦市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年5月における小麦市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 夏収穫小麦は収穫の9割が完了、夏糧は豊作に

6月に入り、麦の生産地の大部分は天候がよく、収穫作業は順調に進展した。6月12日以降、華北の大部分及び黄河・淮河流域は雲の多い天気为主で、基本的に冬小麦の収穫に有利であることから、麦の収穫作業は比較的迅速に行われた。西北地域や華北の一部では、曇りやにわか雨があり、麦の収穫に若干の影響を与えた。ただし、乳熟後期の冬小麦の成熟には、このことが比較的有利に作用した。現在、小麦収穫は90%が完了し、今年の夏糧（夏に収穫される食糧で、ほとんどは冬小麦。ほかに大麦、燕麦、ソラ豆、エンドウなど）は豊作で、1985年以来初めて4年連続の増産と予測され、単収は歴史的最高水準となることが見込まれている。

2 1～4月の小麦輸出は前年同期に比べ大幅増、純輸出構造を呈す

海関統計によると、4月の中国の小麦輸出量は前月に比べ大幅増加の11.88万トンで、前月比1.05倍、前年同月比23.15%減となった。小麦の輸入量は3,464.2万トンで、前年同月比94.86%減となった。

1～4月の小麦輸入量累計は、前年同期比67.76%減の6.6万トン、輸出量累計は同90.65%増の37.73万トンとなった。前年同期の純輸出量が1.17万トンであったのに対し、今年は31.13万トンとなった。

3 国内の小麦供給量は需要を満足、国際小麦在庫は減少

【国内市場】2007/08年度（2007年6月～2008年5月）における中国の小麦生産量は安定を維持しつつ、若干の増加と予測されている。国内の小麦総消費量は前年をやや上回り、うち食用消費量はやや減少するが、国内畜産業の発展や、小麦とトウモロコシの価格比の変化、バイオエネルギー需要の影響などを受け、飼料消費量及び工業用消費量は増加することが見込まれている。今年度の国内の小麦供給量は、需要を満足できると予測され、国内における小麦の期末在庫量は、前年度に比べ小幅ながら増加することが見込まれている。

【国際市場】米国農務省（USDA）の今年5月の発表によると、2007/08年度における世界の小麦生産量、消費量は前年度を上回るものの、期末在庫は引き続き減少する。当年度の世界の小麦生産量は、前年度比2,292万トン（3.86%）増の6億1,687万トンと予測されているものの、2004/05年度及び2005/06年度に比べ、依然として低水準にある。増産の幅が比較的大きいのは、オーストラリアが1.1倍、米国が19.95%増、インドが6.27%増、ロシア連邦が8.02%増などで、逆にカナダは10.18%減、アルゼンチンは9.86%減と予測されている。また、同年度の期首在庫は1億2,036万トン、総供給量は前年度比やや減の7億3,723万トン、消費量は同0.27%増の6億2,387万トンで、カナダ及びEU27か国で飼料用消費が減少することから、世界の飼料向け小麦消費量は、同3.17%減の1億599万トンとみられている。

同年度の小麦生産量は、依然として消費量を満たしておらず、その前年度の不足量2,823万トンに比べると大幅に減少するものの、700万トンの不足が見込まれている。このため、期末在庫量は引き続き減少し、前年度比5.82%減の1億1,336万トン、1982/83年度以来の最低水準と予測されている。

2007/08年度の世界の小麦の在庫／消費比は、前年度比1.17ポイント減の18.17%と予測され、1960/61年度以来最低水準となり、国連食糧農業機関（FAO）の想定する食糧安全警戒ラインに接近している。同年度の世界の小麦輸入量は、同0.07%減の1億729万トンと見込まれている。同じく輸出量は、同2.60%増の1億1,029万トンで、うちオーストラリア、ロシア、ウクライナ及び米国向けが増加する一方、カナダ及びEU27か国向けが減少するとみられている。

4 国内小麦市場は全体に安定的、新収穫の麦が続々市場へ

5月は小麦（2006年の最低買上価格小麦）の競争入札が毎週開催、5月31日までに26回の入札が行われ、2,373.6万トンの売渡計画に対し1,386.4万トンの契約が成立、成約率は58.4%となった。うち河南省の成約率は43.5%、安徽省（湖北省、河北省、江蘇省、山東省）では65.2%となった。現在までのところ、2006年の最低買上価格小麦の総成約率は34%となっている。

5月の市場情勢は基本的には安定しており、鄭州市（河南省の省都）の食糧卸売市場における普通小麦（一般品質の小麦）の卸売価格は1トン当たり1,508.38円で、前月比0.09%

高、前年同月比7.05%高となった。同じく優良小麦については、4月下旬から価格が下落し、1トン当たり1,620元まで下がった後、5月は基本的にこの価格ラインで安定し、前月比0.98%安、前年同月比3.58%高となった。

5月中・下旬は全国の南から北に至るまで、冬小麦の収穫が始まり、一部の地域では収穫後間もない「新麦」が続々と市場に出回っている。湖北省襄樊市の調査によると、同市では新麦の販売が5月18日から全面的に開始され、農村部の仲買人による農家からの買取価格は1斤（約500g）当たり0.62～0.63元、事業所買取価格は同0.65元、加工企業への送致売価は同0.67元であった。湖北省随州地区における中等新麦（水分含有量13～14%）の倉庫買取価格は同0.68～0.69円で安定的に推移した。河南省の一部の地域では、5月下旬に少量の買い付けが始まったが、買い付け始めの価格が高く、現在も高水準で推移している。南陽市（河南省の都市）では、農村部における農家売渡価格が同0.65元前後で、買い付け始めに比べ0.01元前後高くなった。河南省駐馬店市の新麦の駅到着価格は、同0.68元であった。また、一部の企業では優良小麦の在庫量があまり多くなく、積極的に資金を調達して在庫補充を図っており、新麦の発売後に大量に買い付けを行うものとみられている。このため、今年は新麦の販売が集中する数か月間、市場は買い主体となるものと予測されている。

5 国際小麦価格は下落するも、国内小麦との価格差は引き続き拡大

USDAの5月の発表によると、2007/08年度における世界の小麦供給量は、前年度を上回ると予測されている。この予測は、現物価格が下落することを意味する。

【現物取引】5月の米国メキシコ湾における硬紅冬小麦（蛋白質含有量12%）の平均港湾価格（本船渡し価格＝FOB価格）は、前月比3.31%安、前年同月比0.22%高の1トン当たり203.25ドル、同じく西北太平洋における硬紅冬小麦（蛋白質含有量14%）の平均FOB価格は、前月比2.53%安、前年同月比5%高の221.75ドルとなった。

【先物取引】5月のカンザス先物取引所における硬紅冬小麦の平均先物価格は、前月比2.91%安、前年同月比0.63%高の1トン当たり175.34ドルとなった。5月のミネアポリス先物取引所における硬紅春小麦の平均先物価格は、前月比0.54%高、前年同月比16.36%高の1トン当たり191.66ドルとなった。

今年に入って国際海上輸送費は絶えず上昇し、5月は1トン当たり75ドルとなり、1月に比べ19ドル、前年同月に比べ40.4ドルも上昇した一方、国内の優良小麦価格が下落を続け、小麦の内外価格差は拡大を続けた。関税や増値税及び港湾諸雑費などを総合的に考慮すると、5月の米国メキシコ湾における硬紅冬小麦（蛋白質含有量12%）の通関渡し価格は、同月の国内優良小麦の消費地における卸売価格に比べ、1トン当たり679元高であり、前月に比べその価格差は10元拡大し、4カ月連続で価格差が広がることとなった。